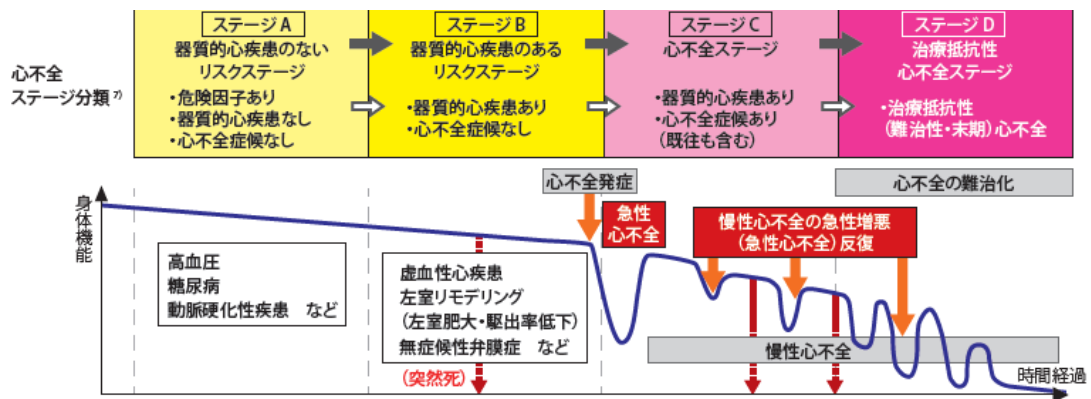


心不全が増えていきます

ここ 10 年来、心不全入院の患者さんが増えていきます。心不全は繰り返しながら死に至る病気です。日本循環器学会と日本心不全学会では予防・啓蒙のため 2017 年 10 月に『心不全の定義』を発表しました。『心不全とは、心臓が悪いために、息切れやむくみが起こり、だんだん悪くなり、生命を縮める病気です』と。



心不全の始まりは高血圧や糖尿病などのいわゆる生活習慣病で、症状がなくてもこれらの病気を持っていれば心不全のステージ A (図※) なのです。この段階で必要な治療を受けないと、心臓の肥大や動脈硬化がすすみやがて心不全を発症します (ステージ C)。心不全は治療しても何度も急性増悪を繰り返し (ステージ D)、命を縮める病気です。日本人の心不全による 5 年生存率は 50% と予後は決して良くありません※。検診で高血圧や脂質異常を指摘されたら、心不全の発症を予防するため、早めに指導や治療を受けましょう。心不全の前段階だという自覚を持つことが大切です。

※ 日本循環器学会/日本心不全学会合同ガイドライン「急性・慢性心不全診療ガイドライン 2017」より